



Gyoshu NEWS

～広報部～

October 4, 2018

PUBLISHED BY 広報部

特集：梅雨明け！

生徒会紹介

新生徒会が発足した。今回は、新生徒会のメンバーから一言を頂いた。より良い学校生活にするために、改善点や検討してほしいことなど意見があったら、生徒会役員に相談してください！また、広報部でも生徒会の活動について、毎号紹介していきたいと考えている。

〔生徒会長〕 柏木結大（2 A）

優れた計画力と素早い行動力で活動し、理想的な学校生活を目指します。皆さんの御協力を宜しく願います。

〔生徒会副会長〕 山本柚寿（3 - 4）

今期で2度目となる生徒会。まだまだ成長段階ではありますが、みなさんの期待に添えるよう精一杯頑張りますので、これからも生徒会をよろしく願います。

〔生徒会副会長〕 齋藤ゆき乃（2 A）

皆さんの意見を取り入れながら、学校をより良くしていき、生徒会と皆さんをより密着させたいです！全力で頑張ります！

〔書記〕 出口隼詩（2 A）

生徒会の活動の明確化をしていきたいと考えています。車いすで迷惑をかけるかもしれませんがよろしくお願いします。

〔書記〕 内村明子（1 α）

生徒の皆さんがもっと充実した学校生活が送れるよう頑張ります。

〔会計〕 趙子毅（1 α）

皆さんのために精一杯頑張ります。

〔書記〕 須黒愛流（1 - 3）

生徒が満足できる学校環境にしたいです。

〔書記〕 星屋奈那花（2 - 4）

暁秀をより良い学校にしたいと思っています。先輩方に迷惑をかける事もあるかもしれませんが頑張ります！

（高2・出口）

特別企画： 暁秀の一周回って知らないところ 座談会スペシャル

暁秀の最大の特徴と言っても過言ではないコース分け。コア/進学/特進、アルファ、バイリンガルの3つに加え、中学生と高校生。色々な進路を歩む人たちが同じ校舎で学んでいる。当たり前すぎて誰も気にしない。でもそういえば...他のコースはなにをしているんだろう？実はよく分からないことがないだろうか？一周回って知らない話。色々なコースを進むゲストたちを招いてのスペシャルトークをお届けする。

今回のゲスト

〔中学コア（3-1）〕 磯部由奈さん（磯）
 〔中学アルファ（3-3）〕 加藤伶音さん（加）
 ＊中3でバイリンガルからアルファへ
 〔中学バイリンガル（3-5）〕 中原瑠南さん（瑠）
 田邊龍之介さん（田）
 〔高校特進（2B）〕 栗木美琴さん（栗）
 〔高校アルファ（2α）〕 小山あゆさん（小）
 堤香林さん（堤）
 〔高校バイリンガル（2Z）〕 中山志乃さん（中）
 森太優さん（森）

トークの前に、各コースの魅力や特徴を紹介！

（小）αクラスは中1から一緒なので学年が上がるにつれてクラスにいるときの安心感のようなものが生まれます。

（磯）コアの魅力と特徴は、授業が習熟度別に分かれているので、自分の実力が分かりやすいことです。あと、皆勉強にカリカリしてないので自分のペースでやりやすいです。

（田）バイリンガルの魅力は、全てにおいて自由度が高いところです。みんなのびのびと好きな事ができます。特徴は、ほとんどの授業を英語で受けることが挙げられます。

～座談会～授業、勉強、進路について：

（瑠）ずっと気になっていて多分バイリンガル生共通の疑問だと思うんですけど、家庭科って何するんですか？

（田）それ！調理室が近いからいつもいい匂いが～。

（栗）家庭科は、調理などの料理関係とか、衣服などについて考えてプレゼンをしたりしますね。家庭科と一言で言っても、調理実習ばかりやっているわけではないよ。

（家庭科は中学生は3年間、高校生は1年次のみ）

（森）そのプレゼンってどんな感じでやってるの？

（栗）テーマに沿って1班4人ぐらいでプレゼンしてあとで話し合ったりします。

（堤）けどプレゼンをするのは家庭科ぐらいかな。先生によって変わるかも。

（α、コア）それはある。

（堤）けどやっぱりバイリンガルってプレゼンが得意そうなイメージあるよね。

（森）バイリンガルはパソコン慣れしてるし、複数の教科でプレゼンも沢山してるけど、得意じゃない人もいっぱいいる。

（田）バイリンガルだからって得意だとは限らないし、人それぞれだよな。

（森）バイリンガルはプレゼンそのもので成績が決まっちゃうこともあるけど、アルファ、コア、特進、進学コースはテストだけで成績ってやっぱ決まっちゃうの？
 （堤）そうですね。高校に入ってから特に。成績においてテストはすごく比重が重いですね。

（森）バイリンガルはテストの比重よりも課題の比重の方が重い場合もあるんだよね。

（中）エッセイとかね。

（森）けどそのエッセイも正解が無いから、自分ではあっているか分からないという。

（中）そこは大変なところだね。

（森）加藤君って確か中3からアルファに行ったんだよね？何か困った事とかある？

（加）一番困ったことは英語のテストですね。文法が全然できなくて。

（瑠）やっぱり、英語って無双できたりするの？

（加）授業中はできたりするんだけど、やっぱりテストでは引かかるなあ。

（バイリンガル生一同）日本の教科書にあるような英語の文法に弱いというのもバイリンガルあるあるだよな。

感じる距離感：

（中）私は逆にαとコアのつながりってどれぐらいあるんだろうって気になりますね。バイリンガルはやっぱり他のクラスとの距離感が遠い感覚があるので…。

（堤）高1までは本当に全然違う授業だったし、あまり距離感は近くない感じでしたな。一概には言えないけど（笑）でも、高2になってからは文系理系の違いはあれど一緒に受ける授業が出来たので、距離感は縮まったかもしれない。栗木ちゃんとはそこで一緒になったんだよね。けれどもそれ以外ではあんまりないかも。
 （栗）そうですね。教科書も違って、コミュ英だと私たちは青い教科書を使っているけどαの皆さんは違いますよね？

（堤）私はその青い教科書買ったけど、家に置きっぱなしだ。

（小）全然違うね。やっぱり教科書はαと特進、進学だとちょくちょく違うね。



(瑠) 磯部さんはコアなんだよね？ α との距離感はどうな感じなの？

(磯) そうですね。程よい距離感です。あまり遠い距離感ではないけれども、だからといって α とコアでワイワイするといった感じではないですね。

座談会を終えて：

今回の座談会を通して、私達にはお互いに一周回って知らないことがまだまだ沢山あることが分かった。この発見を受けて、私たち生徒たちが、互いのコースの違いや、それぞれのコース特有の悩みなどを理解し合い、受け入れることがもっと必要であると感じた。クラス間の距離感が更に縮まれば、暁秀は生徒にとって更に充実した学校になると思うからだ。そのためには、中学・高校といった“縦”の繋がりでなく、クラスの垣根を超えた“横”の繋がりを意識した交流の場を学校全体でもっと増やしていきたいと感じた。

(中3・中原、高2・堤、高2・中山)

E サ ポ っ て 何 ？

皆さんは「English support」、略して「E サポ」という言葉を校内で一度は聞いたことがあると思う。このEサポは、英語力のある4人の高校生、2年Z組の竹下颯人さん、川合紀歌さん、小西メリーさん、南佑弥さん（以下スタッフ）がボランティアで主に沼津市に住んでいる中高生に英語を教える活動だ。しかし、聞いたことはあるものの、実際どのようなことを行っているのか分からないという生徒も多いのではないだろうか。そんな生徒のために、今回はEサポ取材し、そのレッスンの内容やレッスン中の雰囲気などについて報告する。

Eサポのレッスンは1時間を目安にしていて、その内容は大きく二つに分かれている。一つは当たり前だが、レッスンだ。このレッスンでは、学校の授業で学べない、ネイティブが実際に使う英語表現を学ぶことができる。私が取材に伺った日は、英語のイディオム（慣用句）やスラング（俗語）を楽しく学ぶことができた。このように楽しく学べた要因にはレッスン中のチャレンジ精神を刺激するような雰囲気と、アットホームな雰囲気、二つの雰囲気の存在にある。

まず、スタッフがこれから説明しようと思っている表現や単語を使った寸劇をし、その意味を推測してもらう。ここで生徒たちが自分たちの推測を口に出せる

のは、チャレンジ精神を刺激する雰囲気が醸し出されているからだ。もし間違えたとしてもスタッフが“Good guess!”と笑顔で励ましてくれるので、間違えたことで消極的にならない。また、推測が当たると、スタッフ全員から褒められるため、とてもやる気が湧くのだ。その後、スタッフが説明する。この説明はとても分かり易いため、生徒たちの間で納得の声が多く上がっていた。この時に、生徒たちは気兼ねなく分からないところを分からないと発言することができるのは、アットホームな雰囲気が醸し出されているからだ。すべての説明を終えると、その日の振り返りとして、その日に学んだ表現や熟語の一つ使って文章を作り、発表する。発表といっても大々的なものではなく、自分がきちんとレッスンの内容を理解したかを確認するためのものだ。

そして、二つ目のレッスン内容は refreshment time（リフレッシュメントタイム）だ。これはお菓子とジュースを片手にスタッフと生徒が喋る時間だ。この時間はとても濃いものであり、スタッフと生徒が親交を深められるのである。

Eサポに取材に伺ったとき、一番印象的だったのはスタッフの口から発せられた“We can always help you.”という言葉から感じるそこはかとなく深い安心感だった。この言葉でスタッフはさらに頼れる存在となり、生徒たちは安心して質問できるのではないか。この言葉のようにこれからも英語を学ぶ中高生の頼れる存在で居続けてほしいと思う。



(高2・宮本)



福西先生へのインタビュー



Q 1：何故、非常勤講師から専任になったのか？

A 1：暁秀中高校で4年間非常勤講師をして生徒さん達と、とても楽しく過ごすことができました。授業だけではなく、行事など、さらにもっとたくさんの時間を一緒に過ごして見たいも思ったからです。

Q 2：専任になって一番大変だったことは？

A 2：プライベートでは、家事との両立。フルタイムで働いている世の人たちは凄いと感じました。仕事上では今までと違い、生徒の様子を常に気を配って気にする事が必要な担任の仕事はとても大変。

Q 3：今までと大きく変わったことは？

A 3：社会科教室から職員室に引っ越した事。毎朝見えていた池の鴨が見れなくて残念。

Q 4：今自分が達成したいことは？

A 4：みんなが元気で登校して、今日も楽しかったと言って下校してもらえるようなクラスにすること。これが達成できれば成績も上がり、自分の進路に向かっていけると信じているから。そして、自分が元気に明るく頑張れること。

Q 5：最後に一言

A 5：大変ではあるが家族の支えがあったり、和やかな職員室や先輩の先生方の助けがあったりして楽しいです。諸先生方に近づけるように努力の毎日です。

(高1・久保)

前田先生にインタビュー



Q 1：暁秀に来たきっかけは？

A 1：地元が富山県ですが、静岡県の気候にほれたので、まず静岡県の学校を探しました。そのとき、暁秀の生徒の雰囲気がとても良いと聞いたので、暁秀を選びました。

Q 2：理科の教師になった理由は？

A 2：英語以外はだいたいできるので、その中でも理科は実験があって楽しいからです。

Q 3：今の口癖は？

A 3：「ねえー」のように、語尾をのぼしてしまう。

Q 4：暁秀での仲の良い先生は？

A 4：池田先生と伊藤先生です。池田先生にはいつも助けられていて、伊藤先生は同じ大学だったからです。

Q 5：自分のチャームポイントは？

A 5：声の大きいところです。誠実をモットーに頑張っていますっ！

Q 6：特技は？

A 6：自転車を直せることです。ママチャリは無理だけど、ロードバイクなら直すことができます。

(中2・木内、野島)

一輪車に向ける思い

一輪車の世界大会（フルマラソン）で見事1位を勝ち取った野島円さんに話を聞かせてもらった。

そもそも、野島さんが一輪車を始めたきっかけはお兄さんからだという。お兄さんを見て楽しそうだと感じ、2歳の頃から練習を始め今ではもう10年も経ったと嬉しそうに話す野島さん。その表情からは一輪車が好きでたまらないという感情が見て取れた。

今回の優勝はこれまでの練習の成果の賜物と言えるだろう。ところが、なんと野島さんは教室やジムなどには通っておらず、自分で一輪車をひたすら練習していたという。そのストイックさには舌を巻くが、独学ゆえに辛さや苦しみを共有出来る仲間がおらず、心が折れそうになった時もあったと野島さんは苦笑いを浮かべた。

しかし、野島さんはふと真剣な顔になると、重みのある一言を呟いた。「……でも、やっぱり一輪車やってきて良かった。練習を頑張った分だけ、結果が出たから」

今回の世界大会は韓国にて行われた。ライバルは軽く百人を超えていたらしい。そんな中でフルマラソンを全力で漕ぎきり、1位を掴み取った野島さん。努力は裏切らないということを素晴らしい結果とともに証明した彼女の健闘を讃えたいと思う。

次の夢はイタリア世界大会で優勝することと意気込む野島さん。その夢を全力で応援したい。

(中2・駒走)

